

C-36 貞明皇后ご創案の宮廷服について(その2-ご旅行服)
羽衣学園短大 家政 久保房子

目的 貞明皇后ご創案のご旅行服の製作目的、デザイン、縫製等の実態の解明。

方法 実物資料の調査、写真、旧女官の証言等による総合考察。

結果 このご旅行服は貞明皇后が第2次大戦後、大日本蚕糸会総裁として全国の養蚕地歴訪のため、ご自身で考案された服装であり、後には御用邸等でも着用された。形体は洋服のワンピースのように見えるが、スカートの代りに特殊なモンペをベルトの下で洋服のボデイスと接合させた特別の服装である。モンペは山道や農道の多いこのご旅行では従来の裾長の宮廷服にくらべ格段に歩行に便利であると共に、足をそろえて立てばスカートに見えるようにデザインされていて宮廷服としての品位を失なうことはなかったとのことである。地質は冬服に渋縮緬か紋縮子、夏服にレースか紋紗等お手許にあった品を用いられ、色は未亡人色の黒に限られた。工作上の技法としてはモンペを袴の切袴風に筒太に仕立て裾の絞りを外に出さないようにすることにより、ボデイスは洋服そのままである。縫製はすべてミシン縫いである。戦後意識的に用いられなくなったモンペの効用を認め、これを改良することによって労働着のモンペを正式の宮廷服に活用されたのは貞明皇后のデザイナーとしてのご手腕であった。この服装は礼服の場合と異なり貞明皇后とお供の女官以外には着用されなかったが、洋服と和服を合一させた唯一の宮廷服として注目すべき服装であると思料する。